

伝えなかった想いをここに

大切な人へ

助産師 思春期保健相談士

後藤 敬子氏

第63回

ズツクの温もりが伝えたものは「自立」でした

「お母さんが届けてくれたぞ」スリッパをはいで教室にいるA君に先生が渡してくれた。昨日、学校から持ち帰ったズツクだった。給食のミネストローネをこぼし赤く染まつていたズツクはきれいになっていた。トマトの染みつて簡単に落ちるんだらうか？玄関先で放置されたズツクを見つければ、洗って、一晩で乾かすのは簡単なことじゃなかったはずだ。A君はしばらくズツクを見つめ考えた。「何時で見つけたんだらう。本当は自分で洗うつもりだったのに……」

持ち帰ったことさえ忘れ、ぬくぬくと眠りについた自分と、仕事や家事を終えてから、真夜中に汚れたズツクを見つけ、文句も言わずに朝まで間に合うようにと洗っている母の姿が目には浮かんた。これは「ありがとう」だけでは済まされない。A君は自分の「甘え」を反省した。持ち帰ったズツクの

ことなど忘れ、洗いもせず、バタバタと会話もせずに家を出てきたこと。「お前は小学生か！」自分への怒りと寝不足の母に申し訳ない気持ちで、ズツクに履き替えた。ズツクの中は、まだ少しあったかい。「しっかりしろ！自分！」と情けなさがこみ上げてきた。

中学三年生への講話で生活上の自立について話をしたばかりだった。自立とは「自分の身の回りのことは自分自身で管理する、家族とコミュニケーションをとる」と理解したA君は全く自立できていない自分に気付く。

今までも忘れ物をする度に母は届けてくれた。そして家族からは「甘い。嫌な思いをして学ばせろ」と責められるのだ。それなのに母は「体育の時間、走れて良かったね」と笑ってくれる。「自立します。自分が忘れ物さえしなければ誰も困らない！だから気を付けてください！」とA君は笑顔で誓ってくれた。自立するためには何ができるのか、責めずに気付かせたお母さん「すごいなー」と思いました。届いたズツクに残っていた温もりは「自立すること」と「お母さんの愛情」も伝えてくれましたね。

日本海と大地がつくる水と命の循環

鳥海山・飛島ジオパーク

リレーコラム

関 観光物産課にぎわい創出事業係
☎26-575759

第135回

ユネスコとは？ジオパークとの関り

ジオパークは「生態系や人々が創り出してきた地域の歴史文化、そして地球活動の痕跡を伝える地形や地質を守りながら活用し、持続可能な社会をつくる」ことを目的としたプログラムですが、これはユネスコの正式事業でもありません。ジオパークの目的とユネスコ活動の目的や理念との間にはどのような関係があるのでしょうか。

「ユネスコ(UNESCO:国際連合教育科学文化機関)は、1946(昭和21)年11月4日に創設された国際連合の専門機関です。ユネスコ活動の目的は、教育や科学、文化の振興を通じて、世界中の人々の相互理解を深め、人々が平和に暮らせる社会をつくることにあり、その究極の目的は世界平和です。『戦争は人の心の中に生まれるものだから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない』というユネスコ憲章前文の文章は、まさにユネスコの理念そのものです。このユネスコの理念の実現に貢献すると認められたことから、2015(平成27)年11月、世界ジオパークの活動がユネスコの正式事業になったのです。

ジオパークは、あらゆる年齢や立場の方が、その人たちなりの関わり方で参加できる活動で、その取り組みは地域資源の保護・保全だけでなく、教育、観光、地域づくりなど、多岐にわたります。ジオパークの活動を通じて、子どもたちが大人になっても幸せに暮らし続けることができる地域を一緒につくっていきませんか。



▲ジオパークサポーター認定グッズのステッカー



▲鳥海山・飛島ジオパークホームページ「サポーター募集」



一般社団法人鳥海山・飛島ジオパーク
推進協議会事務局 次長兼主任研究員
大野 希一氏